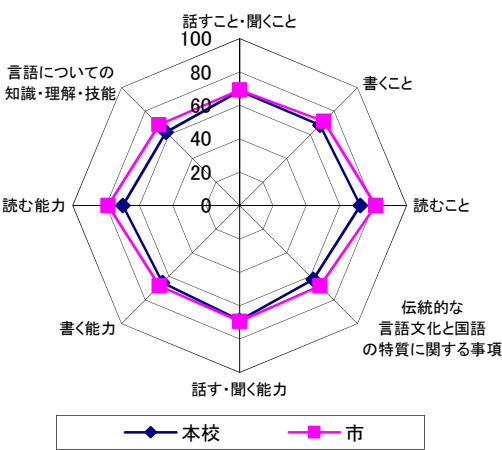


宇都宮市立上河内西小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	68.8	69.3	73.4
	書くこと	68.2	71.3	74.6
	読むこと	72.3	81.5	81.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	62.5	68.1	71.6
観点別	話す・聞く能力	68.8	69.3	73.4
	書く能力	65.4	68.1	71.7
	読む能力	69.9	78.8	79.0
	言語についての知識・理解・技能	62.3	68.4	72.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

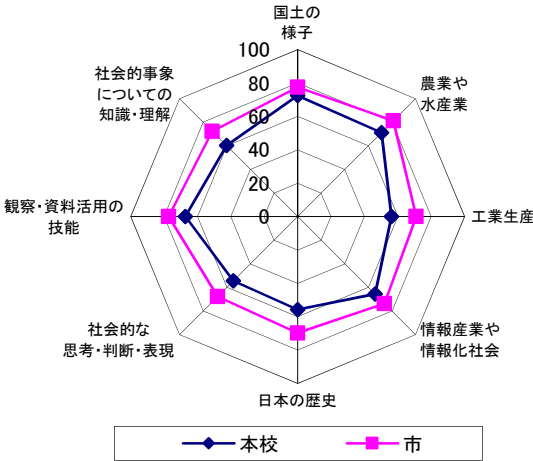
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	市の平均よりやや低い。 ○選択の設問では、全員が正答できたものもあった。 記述式の問いに対しても、市の平均よりやや高い。話し手の意図を考えながら、話合いの内容をまとめることができた。	・今年度も話す力、聞く力の育成を目指して授業研究を継続してきた。小グループでの話し合い活動を多く取り入れてきた成果が少し出てきたようだ。
書くこと	市の平均より低い。 ●指定された長さで文章を書けているが、選んだ考えとその理由を2段落構成で書くことが難しい児童が見られた。	・意見文を書く機会を多く設けることが必要である。選んだ考えと選んだ理由を分けて2段落構成にして改行して書き表すこととよいと思う理由を自分の体験などを交えて書けることの2つを重点的に指導する必要がある。また、理由が友達にも説得できるか、それが根拠となるかを授業の中での交流により吟味できる視点を養いたい。
読むこと	市の平均よりかなり低い。 ●物語の読み取りでは、登場人物の心情についてはおおむね理解している。しかし、文章から読み取れる主人公と情景の位置関係など細やかな描写を理解できなかった児童が多く見られた。 ●説明文の読み取りでは、「～が大切です」と具体的に説明している段落を選ぶことが難しかった児童が多く見られた。	・授業の中でも、位置関係や登場人物の関係など、意見を交流しながら、細やかな描写の理解を深めたい。 ・説明文の読み取りでは、段落構成を捉える学習を多く取り入れる。また、日頃から読解テストに慣れることも必要で、宿題等にも取り入れて読み取り方を理解させることが必要である。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	市の平均より低い。 ●漢字の読みよりも書くことが難しい児童が多く見られる。 ○敬語である謙譲語と尊敬語の使い方をよく理解していて、市の平均より高かった。	・漢字を使った熟語の意味の理解と漢字を使った短文を作り方を継続することが必要である。機械的な書き取り練習ではなく、自分で使えるように日頃から声を掛けて指導を重ねたい。 ・日常的に敬語を使う場面するとき、謙譲語や尊敬語を使わせ理解を深めたい。

宇都宮市立上河内西小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	72.5	77.5	74.0
	農業や水産業	71.1	81.1	73.7
	工業生産	56.3	71.1	73.5
	情報産業や情報化社会	65.6	73.7	63.2
	日本の歴史	55.7	69.7	73.5
観点別	社会的な思考・判断・表現	54.5	67.7	63.1
	観察・資料活用 of 技能	67.2	77.3	75.5
	社会的事象についての知識・理解	60.3	72.2	73.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

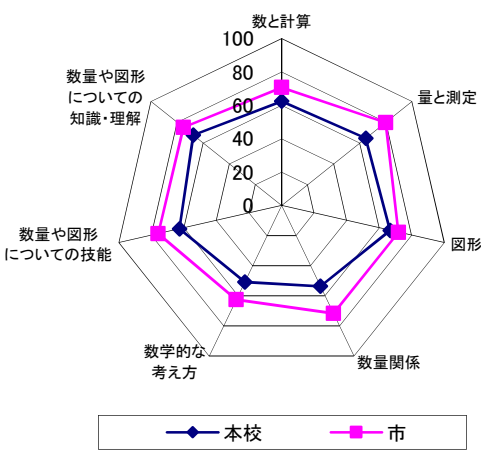
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	平均正答率は、市の平均より低い。 ○日本の周囲の国の国旗や周辺の海洋名についての設問は、市の平均を上回ることができた。 ●日本の気候の様子について、雨温図から解答する問題は、市の平均正答率を14ポイント下回った。 ●森林を守るための間伐についての設問と自然災害の際の自助の大切さについての設問は、市の平均正答率をいずれも下回った。	・外国について、また周囲の海洋名についてよく理解しており、確実な定着が見られる。このことから、地図の見方はよくできているので、雨温図など環境も含めて理解ができるように復習をしていきたい。 ・間伐し、大きな樹木を育てていく必要性を再確認し、持続可能な社会を作っていくためには森林が欠かせないことを学び直してきたい。
農業や水産業	平均正答率は、市の平均よりかなり低い。 ○地図を見て米の生産が盛んな地域を回答したり、食料自給率について表から読み取ったりする資料活用 of 問題は市の平均正答率と同程度である。 ●日本の食糧生産についての課題を文章で記述する問題が市の正答率より低かった。	・資料を活用し、記号で回答する問題はおおむねできている。設問の意図を読み取ることはできてきているので、見るポイントを外さずに回答できるようにこれからも問題に取り組みさせていきたい。 ・文章で解答する問題は市全体も低めだが、さらに低く改善の必要がある。記号での回答から一歩進み、「後継者不足」「労働者の高齢化」といったキーワードを用いて説明ができるように、文章を書く練習に取り組ませていきたい。
工業生産	平均正答率は、市の平均よりかなり低い。 ○化学工業の製品を回答する問題は市の平均正答率と同程度であった。 ●工業地帯・工業地域に適した立地の特徴を回答する問題の正答率が市平均を30.4ポイントと大きく下回った。	・大きく課題となった工業地帯・工業地域に適した立地の特徴は、工業製品の運搬に適した港湾の整備と、運搬手段としての船の整備を訊ねたものだった。太平洋ベルトと言われる地帯がすべて海のある地域にあることを再確認し、その理由とともに覚えられるようにしていきたい。
情報産業や情報化社会	平均正答率は、市の平均より低い。 ○病院を円滑に運営する情報ネットワークについての問題は、市の平均正答率と同程度であった。 ●身近な情報メディアの共通点を答える問題の正答率は、市の平均を下回った。	・多くの部署が情報ネットワークを通じて連携し合い、病院を効率的に運営していることはよく理解できている。ネットワークの重要性についてさらに定着を図れるように、消防署や警察署の例を思い出させながら確認していきたい。 ・記述に慣れられるように、文章で解答する問題に積極的に取り組みせ、表現力も養っていきたい。
日本の歴史	平均正答率は、市の平均よりかなり低い。 ○大和朝廷の支配領域を解答する問題は、市の平均正答率を10.6ポイント上回った。 ○奈良時代、仏教中心の国づくりをしていたことを回答する問題は、市の平均正答率を5.6ポイント上回った。 ●元寇・室町文化といった中世の問題の正答率が市の平均より30ポイント近く下回っている。 ●明治時代の殖産興業についての問題は、市の平均正答率を38.5ポイントと大きく下回った。	・知識として定着している時代とそうでない時代がはっきり分かれている。基礎・基本としてその時代のキーワードとなる語句・人物を押さえ、それを自分の言葉で話したり、記述したりする機会を多くとっていくことが大切である。そのために記述式の問題を解いたり、自主学習として歴史新聞をまとめたりするなど、興味・関心を高めながら学習に臨めるようにしていきたい。

宇都宮市立上河内西小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	62.5	70.8	65.9
	量と測定	64.6	79.9	77.0
	図形	66.7	71.8	74.6
	数量関係	53.6	71.7	73.4
観点別	数学的な考え方	50.9	62.5	59.4
	数量や図形についての技能	62.7	75.8	73.3
	数量や図形についての知識・理解	67.6	75.1	76.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

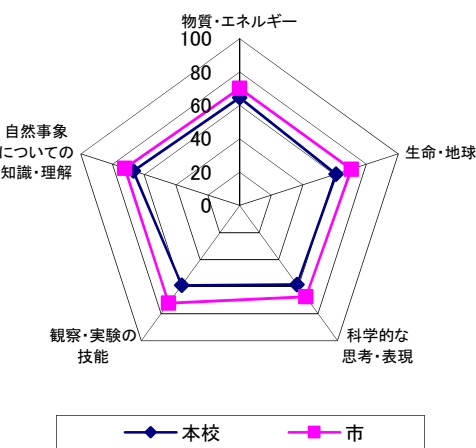
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均より低い。 ○わずかではあるが、分数÷分数の計算を問う問題では、市の平均を超えることができた。 ●小数の除法や分数×整数の計算問題では、市の平均を下回っており、理解が不十分である。	・基本的な計算については引き続き宿題プリントを課すことで、忘れないよう指導を継続したい。 ・小数の除法に関する問題を苦手している傾向があるので、言葉の意味やその言葉が式のどの部分にあたるのかななどを十分に理解させ、言葉で説明する活動を取り入れ確認をしたい。
量と測定	平均正答率は、市の平均よりかなり低い。 ○時速を求める式を問う問題では、正答率は市の平均に近い割合だった。 ●直方体を組み合わせた形の体積の求める問題では正答率が市の平均より下回っていた。立体の多面的な見方についての理解が不十分である。	・復習の時間を設け、定着を図りたい。 ・数学的な考え方、知識・理解に関する問題を苦手している傾向があるので、言葉の意味やその言葉が式のどの部分にあたるのかななどを十分に理解させ、言葉で説明する活動を取り入れ確認をしたい。
図形	平均正答率は、市の平均より低い。 ○線対称な図形の、対称軸の数について問う問題では、市の平均を上回ることができた。 ●三角すいを組み立てた時に重なる頂点を問う問題では、市の平均を下回った。三角すいの性質や展開図になったときの見方についての理解が不十分である。	・いろいろな図形の性質について、再度確認をし、きちんと整理して理解させるようにしたい。 ・点対称、線対称な図形の性質について、再度確認し、作図については、手順をもう一度確認させ、正確に作図が行えるよう問題を解かせ、定着を図りたい。
数量関係	平均正答率は、市の平均よりかなり低い。 ●グラフを読み取り、もとにする量が同じであるが、割合が大きい方が比べる量が多くなることを説明する問いでは、市の平均を下回っている。もとにする量と比べる量の見分け方に不十分さがある。 ●反比例の関係を読み取り、値を求める問題では、市の平均より下回った。反比例についての理解が不十分である。	・比例と反比例の知識が十分でないために、混同してしまっている傾向が見られるので、それぞれの知識をしっかりとさせたい。整理して理解させるようにしたい。 ・文字式についても、多くの問題に触れるだけでなく、なぜそうなるのかについてもしっかりと考えられるようにしながら問題を解かせ、定着を図りたい。

宇都宮市立上河内西小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	64.7	70.3	69.0
	生命・地球	60.8	70.4	70.2
観点別	科学的な思考・表現	58.4	67.5	66.4
	観察・実験の技能	59.0	72.3	68.9
	自然事象についての知識・理解	66.9	72.3	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は、市の平均より低い。 ○ふりこのきまりは、市の平均よりも上回ることができた。 ●特に、物のとけ方の問いが市の平均よりも低い。質量保存の法則の理解が不十分である。	・「物のとけ方」は溶かす前と溶かした後の全体の重さが変わらないこと、溶けたものの取り出し方を正しく理解させる必要がある。そのため、実験を見直し、正しく捉える機会を設けていきたい。 ・小学校の内容を難しい言葉に置き換えて中学校でも学習するので、小中連携を意識して言葉を取り上げていく。
生命・地球	平均正答率は、市の平均より低い。 ●植物の発芽と成長、植物のつくりとはたらきなど、植物に関する問いができていない傾向がある。 ●動物のからだのつくりとはたらきの「はく動」と答える問いにおいて、校内正答率が6.3%と基本的な用語が身に付いていない。	・植物に関して誤った知識が定着している傾向があるため、しっかりと授業で復習させていく。特に、水の通り道、取り入れた水の行方に関する問いの正答率が低かったため、再度実験を行うことで確認させる。 ・理科に関する学習した用語を身に付けさせるために、一問一答形式の小テストを実施していく。